熱中症を防ぐため体育館への冷房空調設備を



高山市議会公明党
山腰恵一

問 令和8年熊本地震は、夏の猛暑の中で発生した大規模災害で多くの被災者は指定避難所である小中学校体育館に避難したが、冷房空調設備がなく熱中症による体調悪化が心配された。指定避難所である小中学校体育館への冷房空調設備の計画的な整備の考えは。

答 冷房空調設備がない体育館は、スポットクーラーや扇風機で対応をしている。昨今の猛暑酷暑の状況の中で、夏場の暑さ対策が課題である。利用者の安全確保の観点からさまざまな手法を検討しており、学校の整備計画との整合を図りつつ対策を検討していく。



身寄りのない高齢者への支援



高山市議会公明党
中筬博之

問 本年6月の法改正により、頼れる身寄りのない高齢者について、入院・入所、死後の事務まで支援を拡充されることになるが、新制度の施行時期である来年4月1日を見据えて、医療と介護の連携や、生計困難者への対応など、第10期介護保険事業計画にどう反映させるか。

答 第10期の計画における具体的な記載については今後検討することになるが、市の第9次総合計画の重点事業にも位置づけており、包括的な支援体制や医療と介護の連携など、取組の推進について記載する方向で進める。



文化財を維持・継承する技術の産業化について



あかつき
中村匠郎

問 文化を守るには、技術を残すだけでなく、その技術が必要とされ、仕事として続いていくことが重要である。高山には全国でも通用する文化財の保存修繕の技術と人材がある。この強みを地域外へ発信し、仕事を呼び込み、文化の継承につながる産業として育てていく考えは。

答 高山には、祭屋台や社寺建築などの保存修繕を担う高度な技術を持つ職人の組合が活動しており、全国での実績もある。これは本市の大きな強みである。国内外への発信や修繕需要の把握、事業者間の連携を支援し、新たな需要や仕事の獲得につなげていく。

こどものデジタル活用について



創政クラブ
片野晶子

問 国内外の新しい研究・科学的知見について、誰が収集・評価し、それを学校教育、保護者への情報提供、家庭への支援にどう反映しているか。さらに、学校医等の専門家を交え、継続的に検討するしくみを作る考えは。

答 高山市教育研究所で情報担当チームを編成し、全国の大学や自治体が行っている最新情報を収集、整理活用することとしている。また「心のスクール検討委員会」を設置し、デジタル機器の活用に伴うネット依存や昼夜逆転、生活リズムの乱れなどの課題についても、医療的視点から分析・助言をいただいている。

